

(別紙報告様式)

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(令和5年度報告)

市町名: 福山市

1 事業評価報告

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始 時期	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価		
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
福山市鳥獣被害 対策協議会	福山市	2020年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	15機	福山市鳥獣被害 対策協議会	2020.12.7	100	イノシシによる農作物被害及び市街地への出没が多発するため、地域住民からの依頼等に基づき捕獲活動を定期的実施しているが、無線機やトレイルカメラを導入することで捕獲活動の効率化を図り、短期間での有害鳥獣の捕獲へと繋がっている。	イノシシ サル	4,914千円	4,490千円	109%	イノシシ サル	306a	474.8a	64%	銃器を使用したの捕獲活動は短期的な駆除のみならず、イノシシの追払い効果にも繋がっている。 また、トレイルカメラを活用した捕獲活動をすることで、効率的な捕獲につながっている。
		2021年度	イノシシ	デジタル登録局無線機	19機		2022.2.24	100			0千円	0%	1a		0a	0%		
		2022年度	イノシシ	デジタル登録局無線機 箱わな トレイルカメラ	9機 3基 7台		2023.2.17	100										
		2020年度	イノシシ シカ サル	(緊急捕獲)	有害捕獲(対象鳥獣の個体数を低減するため、緊急的な捕獲活動を実施)	720頭 2頭 2頭	福山市鳥獣被害 対策協議会			農作物に危害を加える有害鳥獣を駆除することを目的として、イノシシ・シカ・サルの捕獲を実施したことにより、野生動物の個体数調整が図られ、農作物被害の防止に一定の効果を得ることができた。								有害鳥獣捕獲班による捕獲頭数は年々増加傾向にあり、継続した捕獲活動により更なる個体数の調整が必要である。
		2021年度	イノシシ シカ サル	758頭 3頭 2頭														
		2022年度	イノシシ シカ サル	843頭 6頭 1頭														
		2022年度	イノシシ	ワイヤーメッシュ柵		1,727m		福山市鳥獣被害 対策協議会	R5.3.24		100	受益圃場全体にワイヤーメッシュ柵を設置することにより、イノシシの圃場内への侵入を防ぐことができた。						

注1)被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。

注2)達成率の算出方法については「実績値(=基準年値-実績値)÷目標値(=基準年値-目標値)」であるとして算出してください。

2 第三者の意見

コメント: 広島県 東部農林水産事務所 林務課長  
イノシシの個体数調整の必要性が高まる中であって、捕獲活動を担う捕獲班の安全性の確保や捕獲効率の向上を図るための被害防止対策事業を実施し、捕獲頭数が年々増加していることなど一定の効果を発揮していると評価できます。引き続き鳥獣被害を防止するために、環境整備・被害防除対策での施設の管理等、地域と連携した取組みも期待します。

注)第三者の名前・所属・役職等を記載のこと。